

都市再生整備計画 事後評価シート
藤沢本町地区

令和4年3月

神奈川県藤沢市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	藤沢市		地区名	藤沢本町地区			面積	20.5ha	
交付期間	平成27年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和3年度		交付対象事業費	2,065百万円	国費率	0.5			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】観光交流センター周辺道路 【公園】吉野町公園 【高質空間形成施設】観光交流センター周辺道路 【高次都市施設】地域交流センター、観光交流センター 【中心拠点誘導施設】社会福祉複合施設									
		提案事業	-									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	【道路】市道藤沢駅町田線 ※第4回変更(R2.4)で削除	事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			【高質空間形成施設】市道藤沢駅町田線 ※第4回変更(R2.4)で削除									
		提案事業	-									
		新たに追加した事業	基幹事業	【高次都市施設】地域交流センター ※第1回変更(H27.12)で追加				電線類の地中化を含めた歩道のバリアフリー化を目指すため、本計画期間内での整備は困難であることから、別途計画において、道路事業などの補助採択を受け、事業化を図ることとしたため、道路事業(市道藤沢駅町田線)を取りやめた。		指標を地を域交流センターの貸館機能稼働率の向上としているが、バリアフリー化による機能向上は本計画期間内で図れないものの、既存道路が活用できるため、指標への影響は生じない。		
	【中心拠点誘導施設】社会福祉複合施設 ※第2回変更(H28.6)で追加						電線類の地中化を含めた歩道のバリアフリー化を目指すため、本計画期間内での整備は困難であることから、高質空間形成施設(市道藤沢駅町田線)を取りやめた。		指標を地域交流センターの貸館機能稼働率の向上としているが、バリアフリー化による機能向上は本計画期間内で図れないものの、既存道路が活用できるため、指標への影響は生じない。			
	【道路】観光交流センター周辺道路 ※第3回変更(H30.1)で位置付け変更						都市再構築戦略事業への移行に伴い補助対象施設として整備した。		当初計画より指標を同施設の利用稼働率の向上として設定しているため、変更による指標への影響は生じない。			
	提案事業	-										
	交付期間の変更	当初	平成27年度～平成31年度(5年間)	交付期間の変更による事業、			なし					
変更		平成27年度～令和2年度(6年間)	指標、数値目標への影響									

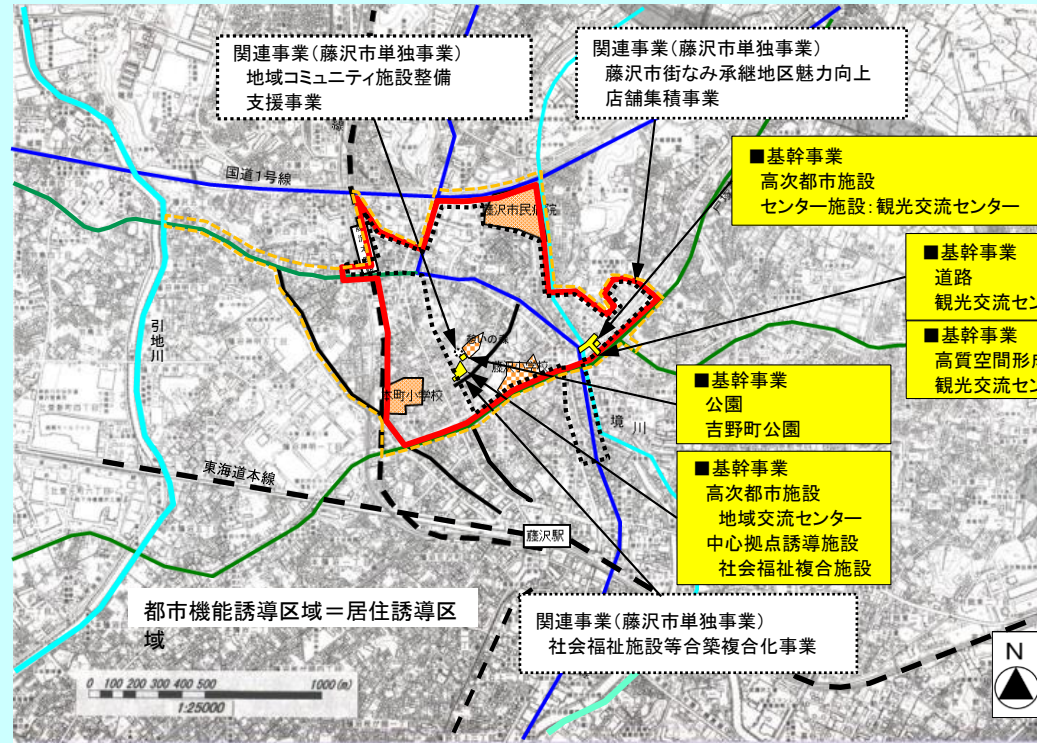
	指 標		単 位	従前値		目 標 値		数 値		目 標 達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	指標2											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	地域交流センター貸館機能稼働率	%	41.8 (130,958人/年)	H24	62.7	R3	-	63.5 (139,212人/年)	R1	あり	藤沢公民館、労働会館、福祉・子育て関連施設を複合化したことにより、幅広い世代での利用、機能の充実、これまで活用することがなかった住民の利用が拡大したことが要因と考えられる。 なお、目標達成年度は新型コロナウイルス感染症の影響前のR1としている。	-	
	藤沢宿への年間来訪者数	人	5,950	H25	25,000	R3	-	35,494	R1	あり	新規施設ができたこと、ふじさわ宿交流館を拠点としたイベント等が新たに開催されたこと、また、ふじさわ宿交流館周辺の道路が歩車分離や照明等が高質化されたことも起因したと考えられる。 なお、目標達成年度は新型コロナウイルス感染症の影響前のR1としている。	-	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	件/年	81	H28			-	R1 98			H28年4月にオープンし、ふじさわ宿交流館を中心としたイベントを開催し、参加者を増やしふじさわ宿の普及を図ってきた。しかしR2年1月頃から新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントのみならず施設の利用が出来なくなり、R2はイベント数、参加者数が大幅に減少した。 R3は感染症対策した上で、イベントの開催を再開している。	-	
	その他の数値指標2	人/年(件)	70,537 (4,259)	H24-26 平均			-	R1 87,168 (3,890)			藤沢公民館、労働会館、福祉・子育て関連施設が複合化したことによる、幅広い世代での利用や、機能の充実によりこれまで活用することがなかった住民の利用が拡大したことが要因と考えられる。しかしR2年1月頃(R1)から新型コロナウイルス感染症の影響により、施設等の利用が出来なくなり、R2の利用者数は大幅に減少した。	-	
	その他の数値指標3	人/月	1,578	H30			-	R1 2,202			R1年4月にFプレイスの複合施設の一つとしてオープンした。施設内に労働会館や児童クラブが併設され労働に関連する書籍の寄贈を受けるなどのこともあり、複合化による利用者の増加が顕著に現れた施設である。 なお、利用者数の算出にあたっては新型コロナウイルス感染症による閉館による影響月は考慮していない。	-	

4) 定性的な効果 発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで各施設ごとの施設祭が実施されていたが、Fプレイス全体で実施することで、にぎわいと交流が生まれた。 ・障がい者、高齢者施設、ボランティアセンターが隣接し、相互に連携することができるようになり、利用者の利便性の向上とコミュニティが生まれた。 ・ふじさわ宿交流館と修景に一体感を持たせる道路の整備により、きれいな街なみが醸成され地域の顔としての街なみが形成されるとともに、電線地中化により災害時の安全性が確保された。 				
5) 実施過程の評価		実施内容	実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	-	都市再生整備計画に記載し、実施できた		-
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	住民参加 プロセス	藤沢宿交流館の設置に関し、施設の運営・管理について、利用すると想定される団体等を対象として意見交換を行った。	都市再生整備計画に記載し、実施できた		● いただいた意見等を踏まえ、運営・管理の詳細を決める際の参考とした。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
		藤沢公民館・労働会館等複合施設建設に関し、新施設に望む設備・運営・管理等について、藤沢公民館建設検討委員会を開催し意見交換を行った。また、近隣住民や労働会館等新施設に入る施設の利用者に対し説明会を行いながら意見聴取を行った。	都市再生整備計画に記載し、実施できた		● いただいた意見等を踏まえ、建設及び運営・管理の詳細を決める際の参考とした。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	持続的なまちづくり 体制の構築	-	都市再生整備計画に記載し、実施できた		-
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			

様式2-2 地区の概要

藤沢駅周辺地区(神奈川県藤沢市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
目標「地域交流拠点の再構築によるコミュニティ活動の活性化」 目標1 活力ある地域コミュニティの形成 目標2 歴史文化資源活用による交流とにぎわいの創出	地域交流センター貸館機能の稼働率	単位: % 41.8 (130,958人/年)	H24	62.7 R3 63.5 (139,212人/年)	R1
	藤沢宿への年間来訪者数	単位: 人 5,950	H25	25,000 R3 35,494	R1
	ふじさわ宿交流館におけるイベント実施数	単位: 件/年 81	H28	- - 98	R1
	ふじさわ宿交流館におけるイベント参加者数	単位: 人/年 3,076	H28	- - 5,501	R1
	労働会館の貸館等の利用人数	単位: 人/年 70,537	H24-26	- - 87,168	R1
	藤沢市民図書館の月平均利用者数	単位: 人/月 1,578	H30	- - 2,202	R1



計画区域		
都市計画道路	国道	— ----
	県道	— ----
	市道	— ----
区域内主要施設		

<p>まちの課題の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流センター(Fプレイス)と藤沢宿との距離的隔たりがあり、地区としてのより一層の一体性や連携強化が求められる。 ・エリア内にある歴史的建造物(旧桔梗屋)の民間事業者による活用を視野に入れ、交流の核としたぎわい活動による藤沢宿の魅力向上が期待できる。 ・アフターコロナを見据えたニューノーマルに配慮したイベント等の開催も視野に入れておく必要がある。
<p>今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流センター(Fプレイス)を中心施設として各機能間の連携により、さらなる地域の賑わいの創出させ、貸室等の利用率向上を図る。 ・吉野町公園の整備により地域の健康増進に寄与する活動を促進する。 ・市道藤沢駅町田線の電線地中化及びバリアフリー化により、回遊性向上による活性化と、歩行空間の安全性の向上による環境改善を図る。 ・歴史的資源を活用した民間事業者等との連携による、藤沢宿の積極的なPR活動と活性化を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、 数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	観光交流センター周辺道路	-	-	103.0	L=162m	事業方式の見直しを図り、電線共同溝方式による手法として、平成29年3月に無電柱化推進計画(H21~H25)に位置づけたため、基幹事業「道路」へ一部位置づけを変更した。 ※第3回変更(H30.1)で位置付け変更	影響なし	●	-
道路	市道藤沢駅町田線	249.0	L=655m	-	-	電線類の地中化を含めた歩道のバリアフリー化を目指すため、本計画期間内での整備は困難であることから、別途計画において、道路事業などの補助採択を受け、事業化を図ることとしたため、道路事業(市道藤沢駅町田線)を取りやめた。 ※第4回変更(R2.4)で削除	影響なし	-	-
公園	吉野町公園	138.0	A=700㎡	218.0	A=700㎡	公園予定地については当初計画のとおりであるが、公園予定地に存する既存家屋及び用地について、土地家屋調査実施による不動産鑑定及び補償費の算定により、用地取得及び補償費が想定より増額した。	影響なし	●	-
高質空間形成施設	観光交流センター周辺道路	158.0	A=1,300㎡	49.2	A=1,300㎡	一部の事業を電線共同溝方式による道路事業としたことから、事業費の減額を行った。	影響なし	●	-
高質空間形成施設	市道藤沢駅町田線	80.0	L=655m	-	-	電線類の地中化を含めた歩道のバリアフリー化を目指すため、本計画期間内での整備は困難であることから、高質空間形成施設(市道藤沢駅町田線)を取りやめた。 ※第4回変更(R2.4)で削除	影響なし	-	-

高次都市施設	地域交流センター	-	-	1,376.8	A=2,737㎡	本計画における目標達成の核となる施設として、基本設計が確定し計画熟度が整ったことから変更追加した。 ※第1回変更(H27.12)で追加	影響なし	●	-
高次都市施設	観光交流センター	147	A=260㎡	88.2	A=260㎡	令和2年度完了事業における事業費精査のため減額を行った。	影響なし	●	-
中心拠点誘導施設	社会福祉複合施設	-	-	57.9	A=3,150㎡	都市再構築戦略事業への移行に伴い補助対象施設として整備した。 ※第2回変更(H28.6)で追加	影響なし	●	-

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、 数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画			
藤沢市街なみ承継地区魅力向上店舗集積事業		旧東海道藤沢宿周辺地区	-	-	平成27年度～未定	平成27年度～未定	制度継続中		
地域コミュニティ施設整備支援事業		集会所(整備支援)	24	24	平成28年度	平成28年度	平成26年度完了	観光交流センターの交付対象外の事業	
社会福祉施設等合築複合化事業		地域交流センター(放課後児童クラブ)	494	166	平成27年度～平成30年度	平成28年度～平成30年度	平成30年度完了	地域交流センターの交付対象外の事業	
藤沢市地域資源活用モデル事業		旧東海道藤沢宿エリア	3	-	平成24年度～平成26年度	-	-	民間補助事業	
高次都市施設整備事業		地域交流センター	1,623	-	平成27年度～平成30年度	-	-	第1回変更(H27.12)で基幹事業(高次都市施設地域交流センター)に移行	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度		基準年度		目標年度						あり	なし		
指標1	%	地域交流センター(フリースペース内公民館内)における、各貸室の年間利用可能コマ数に対する利用件数の割合を算出する。	-	-	41.8 (130,958人/年)	H24	62.7	R3	モニタリング			モニタリング			-	-
									事後評価	確定 ●	63.5 (139,212人/年)	事後評価	○			
指標2	人	観光交流センター(ふじさわ宿交流館)への来館者、施設主催のイベント及び藤沢宿周辺を対象として実施されるウォーキングイベント等の参加者数を計上する。	-	-	5,950	H25	25,000	R3	モニタリング			モニタリング			-	-
									事後評価	確定 ●	35,494	事後評価	○			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	○:藤沢公民館、労働会館、福祉・子育て関連施設が複合化したことによる、幅広い世代での利用や、機能の充実によりこれまで活用することがなかった住民の利用が拡大したことが要因と考えられる。	R1年4月にフリースペースが供用開始されたことから、R1年度に稼働率を算定している。年度末には既に新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、その影響を考慮しても稼働率の向上が図られた。R2年度は緊急事態宣言が発令され施設の利用が制限されたことから、その効果は参考値とする。(R2:50.6%)
指標2	○:新規施設ができたこと、またふじさわ宿交流館を拠点としたイベント等が新たに開催されたこと、またふじさわ宿交流館周辺の道路が歩車分離や照明等が高質化されたことも起因したと考えられる。	H29年度に藤沢宿交流館がオープンしたことから、H31(R1)年度の来訪者数を計上した。R1年度末からR2年度にかけては新型コロナウイルス感染症の影響があり、藤沢宿交流館の利用も制限されたことから、その効果は参考値とする。(R2:16,100人)

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計画

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	ふじさわ宿交流館におけるイベント実施数	件/年	ふじさわ宿交流館内の多目的ホール、会議室等におけるイベント等の年間使用状況を集計したもの。	-	-	81	H28	モニタリング		計画以前は存在しない施設であり、本施設の利用や住民参加が直接的な地区の賑わいを評価できるものと考えられるため。	開催イベントの特徴として、講習・野外活動等多様化している。新型コロナウイルス感染症終息後は藤沢宿交流館に関連するイベント、施設を活用したイベント等の開催により、住民同士の繋がりのほか、来訪者の増加により地域の賑わい活性化を促すためにはPR活動を積極的に行う必要がある。
	ふじさわ宿交流館におけるイベント参加者数	人/年		-	-	3,076	H28	事後評価	確定 ● R1 98 見込み R1 5,501		
その他の数値指標2	労働会館の貸館機能の利用人数	人/年(件)	地域交流センター(Fプレイス内の労働会館)における、各貸室の年間合計利用者数を集計したもの。	70,537(4,259)	H24-26平均	-	-	モニタリング		地域交流センター内の一機能である労働会館の貸館利用者数を指標とすることで、図書室だけでなく地域交流センターに来館した人数と捉えることができ、賑わいや活気の効果を検証できるため。	R2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けており、新たな生活様式により公共施設の利用形態が転換された場合、利用率低下が懸念される。
								事後評価	確定 ● R1 87,168(3,890) 見込み		
その他の数値指標3	藤沢市民図書室の月平均利用者数	人/月	地域交流センター(Fプレイス)にある藤沢市民図書室の月間利用者数を集計したもの。なお、新型コロナウイルス感染症による閉館による影響がある月は集計から除外している。	1,578	H30	-	-	モニタリング		地域交流センター内の一機能である図書室の利用者数を指標とすることで、当該施設だけでなく来館した人数と捉えることができ、賑わいや活気の効果を検証できるため。	施設利用者の属性が多様化しているため、蔵書の充実による利用の平準化と利用率の向上を目指す。
								事後評価	確定 ● R1 2,202 見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・個別の施設祭りを、公民館祭り・Fプレイス祭りと合同で開催することができ、地域の活性化と世代間交流を図ることができた。
- ・施設を複合化したことで、隣接する関連施設が相互に連携し、利用者の利便性と支援体制が強化された。
 - ◇高齢者: 地域包括支援センター(いきいきサポートセンター)
 - ◇障がい者: 地域生活支援センター(おあしす)
 - ◇地域住民: ボランティアセンター(きずな)

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
-	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	-	-

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
藤沢宿交流館の設置に関し、施設の運営・管理について、利用すると想定される団体等を対象として意見交換を行った。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】平成26年度5回 平成27年度2回 【実施結果】11団体の代表から、施設の外観・必要な諸設備についてのご意見や、運営内容についてのご要望をいただいた。	いただいた意見等を踏まえ、運営・管理の詳細を決める際の参考とした。
藤沢公民館・労働会館等複合施設建設に関し、新施設に望む設備・運営・管理等について藤沢公民館建設検討委員会を開催し意見交換を行った。また、近隣住民や労働会館等新施設に入る施設の利用者等に対して説明会や利用者アンケート等を行いながら意見聴取を行った。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】藤沢公民館建設検討委員会 6回 その他説明会等 21回 【実施時期】検討委員会・説明会等 平成26年3月～12月 利用者アンケート 平成26年7月 【実施結果】施設の設備・運営等についてご意見やご要望をいただいた。	いただいた意見等を踏まえ、建設及び運営・管理の詳細を決める際の参考とした。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
-	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	-	-	-

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市構造再編集中支援事業費補助事後評価会議	計画建築部長、行革内部統制推進室長、企画政策課長、財政課長、建設総務課長、都市整備課長、道路河川総務課長、下水道総務課長	令和3年11月9日(火)	計画建築部建設総務課 企画政策部企画政策課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2					
指標名		地域交流センター貸館機能の稼働率		藤沢宿への年間来訪者数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路事業(観光交流センター周辺道路)	-	藤沢公民館、労働会館、福祉・子育て関連施設が複合化したことによる、幅広い世代での利用や、機能の充実によりこれまで活用することがなかった住民の利用が拡大したことが要因と考えられる。	○	新規施設ができたこと、ふじさわ宿交流館を拠点としたイベント等が新たに開催されたこと、またふじさわ宿交流館周辺の道路が歩車分離や照明等が高質化されたことも起因したと考えられる。				
	公園事業(吉野町公園)	○		-					
	○: 藤沢公民館、労働会館、福祉・子育て関連施設が複合化	-		○					
	高次都市施設事業(地域交流センター)	◎		○					
	高次都市施設事業(観光交流センター)	○		◎					
中心拠点誘導施設事業(社会福祉複合施設)	◎	○							
提案事業		-		-					

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	地域のにぎわい拠点として多世代が交流できるイベントの開催や、誰でも利用できる施設運用の促進が望まれる。	ふじさわ宿交流館を拠点とした回遊性を高めるため、周辺の歴史文化資源をPRし、街のにぎわいを生み出す施設として活用する。		
-------	---	---	--	--

指標の種別		その他指標1		その他指標2		その他指標3			
指標名		ふじさわ宿交流館におけるイベント実施数・参加人数		労働会館の貸館機能の利用人数		藤沢市民図書室の月平均利用者数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路事業(観光交流センター周辺道路)	○	H28年4月にふじさわ宿交流館がオープンし多目的ホール、会議室が新たに設置され、拠点や会場とするイベントが開催しやすくなった。	-	藤沢公民館、労働会館、福祉・子育て関連施設等が複合化したことにより、多世代での利用や機能が充実したことでこれまで活用することなかつた住民の利用が拡大した。	-	複合化により児童クラブに関連する利用者や勤労世代の利用が増加した。また、労働に関する書籍の寄贈を受けたことも起因する。	-	
	公園事業(吉野町公園)	-		○		-			
	高質空間形成施設事業(観光交流センター周辺道路)	○		-		-			
	高次都市施設事業(地域交流センター)	○		◎		◎			
	高次都市施設事業(観光交流センター)	◎		○		○			
	中心拠点誘導施設事業(社会福祉複合施設)	○		◎		◎			
提案事業	-	-		-		-		-	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	新型コロナウイルス感染症によりイベント等が中止となっており、今後は積極的なPRにより、まちの賑わいを回復する。	就労支援を促進するセミナーや相談会、就労世代交流イベント等の開催により、施設の活性化や藤沢の経済の発展を支える。	「おはなし会」等の子ども向けの行事の充実や、新たな世代の利用を促す取組を推進する。	
-------	---	--	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市構造再編集中支援事業費補助事後評価会議	計画建築部長、行革内部統制推進室長、企画政策課長、財政課長、建設総務課長、都市整備課長、道路河川総務課長、下水道総務課長	令和3年11月9日(火)	計画建築部建設総務課 企画政策部企画政策課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
地域拠点施設「藤沢公民館」の老朽化が著しく、地域交流活動を推進するうえでの弊害となっていることから、早期に整備が必要となる。	・藤沢公民館・労働会館等複合施設(Fプレイス)が整備され、子どもの家、ボランティアセンター等を複合化し、地域の活動拠点が集約されたことで、地域の交流が生まれた。	・貸室の稼働率の向上を目指す。	・Fプレイスが旧東海道藤沢宿街なみ継承地区外にあり、藤沢宿の回遊動線から外れることから、イベントや事業の連携を工夫するなど、今後の使い方については十分に議論していく必要がある。
貴重な歴史・文化資産である「藤沢宿」の街並み等が消えつつあることで住民同士のつながり意識の希薄化が進んでおり、再活性・醸成が必要となっている。このため地域活動の核となる活性化対策を進める必要がある。	・「ふじさわ宿交流館」を整備したことで、藤沢宿に関連するイベント、施設を活用したイベント等の開催により、住民同士の繋がりのほか、来訪者の増加により地域の賑わいが生まれた。	電線類の地中化を含めた歩道のバリアフリー化を目指すため、本計画期間内での整備は困難であることから、別途計画において、道路事業などの補助採択を受け、事業化を図ることとしたため、道路事業(市道藤沢駅町田線)を取りやめた。	
地区住民の交流拠点の整備に合わせ、お年寄りや子供たちを施設へスムーズに誘導するためのバリアフリー等道路改良が必要となる。	・高質空間形成事業及び道路事業により整備した歩道、デザイン照明、電線地中化により、歩きやすい空間が整備され地域住民のみならず、来訪者が回遊したくなる空間が形成された。	電線類の地中化を含めた歩道のバリアフリー化を目指すため、本計画期間内での整備は困難であることから、高質空間形成施設(市道藤沢駅町田線)を取りやめた。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

本計画における目標達成の核となる施設として、基本設計が確定し計画熟度が整ったことから変更追加した。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	・地域住民の活動意欲 ・福祉機能の連携	利用者層が異なる機能が複合化している特性を生かし、多世代の交流と施設間での連携により、地域拠点として活性化を促進する。	・藤沢地区まちづくり事業
	・歴史文化資源を活用した観光交流拠点としての価値	醸成された地域力を発揮し、やりがい・活力のある地域コミュニティの形成とにぎわいを創出する。	・藤沢地区まちづくり事業 ・旧東海道藤沢宿街なみ継承地区関連事業

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	・貸室の稼働率	・営利目的としない市民以外の利用を拡大し、いつでも誰でも利用可能なルール作りを推進する。	・藤沢地区まちづくり事業
	・アフターコロナの来訪者数	・感染症拡大防止の対策の徹底により、藤沢宿の魅力と多様なイベントを様々な媒体を用いてPRを図る。	・藤沢地区まちづくり事業 ・旧東海道藤沢宿街なみ継承地区関連事業
	・地区の繋がりと回遊性	・ハードのみならず街のあり方や住民たちによる活動や取組を含めた、広義での景観ランドデザインを目指す。	

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

特になし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度				予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	地域交流センター貸館機能の稼働率	%	41.8 (130,958人/年)	H24	62.7	R3	確定 ●	63.5 (139,212人/年)	○	あり	-	-	-	-
							見込み			なし	-			
指標2	藤沢宿への年間来訪者数	人	5950	H25	25,000	R3	確定 ●	35,494	○	あり	-	-	-	-
							見込み			なし	-			
その他の数値指標1	ふじさわ宿交流館におけるイベント実施数	件/年	81	H28	/	/	確定 ●	H31 98	/	/	/	-	-	-
							見込み							
その他の数値指標2	ふじさわ宿交流館におけるイベント参加者数	人/年	3,076	H28	/	/	確定 ●	H31 5,501	/	/	/	-	-	-
							見込み							
その他の数値指標2	労働会館の貸館等の利用人数	人/年(件)	70,537 (4,259)	H24-26平均	/	/	確定 ●	R1 87,168 (3,890)	/	/	/	-	-	-
							見込み							
その他の数値指標3	藤沢市民図書館の月平均利用者数	人/月	1,578	H30	/	/	確定 ●	R1 2,202	/	/	/	-	-	-
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	交付期間途中で事業が完了し、事業の効果を確認できた。	歴史的建造物の活用により、さらなる地域の ぎわい創出を期待できる。
	うまく いかなかった点	最終年度が新型コロナウイルス感染症の影響により、効果の進捗を確認できなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	数値目標に関連する各事業が完了したことにより、数値目標が達成された。	-
	うまく いかなかった点	-	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	施設の整備にあたり、計画段階から地域住民との意見交換により可能な限り計画に反映できた。	施設や歴史文化の資源を活用し、周辺地域との 一体感を持った地区を形成が望ましい。
	うまく いかなかった点	-	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	-	-
	うまく いかなかった点	-	
その他	うまくいった点	周辺施設との複合化により、効率的にサービスを受けることができ、また、地域の居場所となる新たな交流を生み出すことができた。	施設を複合化することによる効果を検証し、機能の集約の検討を行う。
	うまく いかなかった点	-	

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

現在藤沢市で都市再生整備計画事業(都市構造再編集集中支援事業)を活用している地区
・藤沢駅周辺地区(第2期)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表(パブリックコメント)

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに記載	令和3年11月10日(水)～ 令和3年11月17日(水)	令和3年11月18日(木)～ 令和3年12月20日(月)	広報により周知し、所管課窓口や市民センター等での閲覧、市ホームページでの掲載により公表する。	計画建築部建設総務課、企画政策部企画政策課
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページ及び所管課窓口で原案を公表している旨を掲載	令和3年11月10日発行 (広報ふじさわ11月10日号)	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	所管課窓口や市民センター等での閲覧	令和3年11月10日(水)～ 令和3年11月17日(水)	令和3年11月18日(木)～ 令和3年12月20日(月)		

住民の意見	<p>・藤沢地区まちづくり事業・旧東海道藤沢宿街なみ継承地区関連事業の一環で、「ふじさわ宿交流館」を整備や歩道の整備・電線の地中化等の取り組みをして頂いていますが、藤沢宿町並みの景観ゴールの姿に照らし成果評価をするといった視点での業績評価はなされていない。</p> <p>・”国土交通省都市局公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室景観企画係”の掲げている「景観計画策定の手引き及び景観計画・まちづくり事例」「景観まちづくりの制度について」等を参考にして、関連部門と連携の上『藤沢宿を中核としたまちづくり』をどの様に取り組んでゆくのかが検討をして頂きたい。</p>
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	明星大学 名誉教授 木下瑞夫氏 城西大学 非常勤講師 税理士 大場智子氏 一般社団法人インクルージョンネットかながわ 代表理事 川崎あや氏	令和4年2月18日	計画建築部建設総務課 企画政策部企画政策課	藤沢市都市構造再編集 中支援事業費補助事後 評価委員会設置要綱	なし
その他の委員	藤沢地区郷土づくり推進会議 副会長 一柳和子氏				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	その他数値指標1「ふじさわ宿交流館におけるイベント実施数・参加者数」について、③計測手法の記載に従前実績はないとある。事後評価シートには従前値が記載されていることから、③計測手法に係る記載を見直すこと。
	成果の評価	Fプレイス内の2つの施設(公民館、労働会館)について数値指標が異なるのは意図があるようにみえることから、その他の数値指標2「労働会館の貸館等の利用人数」との整合を図るため、指標1「地域交流センター貸館機能の稼働率」の評価値に利用者数を追記すること。
	実施過程の評価	Fプレイス、ふじさわ宿交流館いづれの施設においても、計画段階から十分に市民や利用者の意見を聴き取っている。
	効果発現要因の整理	事業の評価として、もう少し複合化による効果の検証が必要と考える。
	事後評価原案の公表の妥当性	パブリックコメントを実施しており、妥当と認められた。
	その他	同施設内の機能であるのにも関わらず、評価指標が異なることから、評価指標の記載を補足すること。(指標1に利用人数を追記する)
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	妥当と認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	整備した施設は、様々な人々によく利用されている。しかしながら、今後も多世代、様々な方々がイベントなどで両地区(Fプレイスがある地区とふじさわ宿)で繋がっていく方策を考えていくべき。また、回遊性を生み出す方策を考えていくべき。地区として、ハードのみならず街のあり方や住民たちによる活動や取組を含めた、広義での景観グランドデザインを目指して考えていくべき。
	フォローアップ	今回整備した施設について、今後の使い方については十分に議論していく必要がある。
	その他	特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	藤沢本町地区都市再生整備計画の事後評価におけるまちづくり方策は妥当であるが、広義での景観グランドデザインを目指して街づくりをすすめていくことが望ましい。
その他	地区内・施設間の連携や施設の利用向上を目指すためには、多世代にわたる交流を活性化すべく、withコロナ・afterコロナのあり方を見据えることが重要となる。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--